

## 環境中の放射性物質の測定状況（続報）

2011年3月11日の東日本大震災で発生した津波による、福島第一原子力発電所の事故で大量の放射性物質が放出され、文部科学省は47都道府県に対しモニタリング体制の強化を指示しました。

これを受けて当所が実施した調査のうち、8月1日以降の測定状況を紹介します。7月31日までの測定結果は前号（No.12）をご覧ください（<http://www.pref.shiga.jp/e/ef45/kikansi/kikansi.html>）。

### ●当所で行っている環境放射能の測定状況

#### （1）定時降下物（1日1回）

8月1日から12月27日まで、大気中のチリおよび雨水を採取し測定しました。結果は、原子力発電所事故等により生成する人工放射性核種は、検出されませんでした。

#### （2）水道水

8月1日から12月27日まで、水道水2リットルを採取し測定しました。結果は、原子力発電所事故等により生成する人工放射性核種は、検出されませんでした。

#### （3）モニタリングポストによる空間放射線量率

8月1日から12月27日まで、当所屋上に設置したモニタリングポストにより測定しました。大気中のガンマ線の測定値は、0.031～0.048  $\mu\text{Sv/h}$  であり、平常時と変わりませんでした。

#### （4）サーベイメータによる空間放射線量率（地上高1m）

8月1日から12月27日まで、当所中庭でサーベイメータにより測定しました。測定値は、0.056～0.070  $\mu\text{Sv/h}$  であり、平常時と変わりませんでした。

#### （5）その他の放射性核種分析調査

滋賀県内の環境中の試料について、ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線核種分析を行い、原子力発電所事故等により生成する人工放射性核種を中心に7万秒間（約20時間）測定しました。測定結果を表1に示します。月間降下物の値は、福島第一原子力発電所の事故が収束に向かったことから徐々に減少し、8月以降は検出されなくなりました。土壌中からセシウム-137（半減期30年）が検出されていますが、その値は前年度よりやや少なく、ヨウ素-131（半減期8日）やセシウム-134（半減期2年）が検出されていないことから、福島第一原子力発電所の事故以前に蓄積した放射性物質の影響であると思われます。今後も、測定結果を当所のホームページに、逐次掲載してまいります（<http://www.pref.shiga.jp/e/ef45/seikatukagaku/housyanou.html>）。

表1 県内環境中の放射性物質測定結果

試料名	採取場所	採取月	ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137	単位
月間降下物	大津市	3月	3.9	不検出	不検出	MBq/km <sup>2</sup>
		4月	18.1	6.1	6.8	
		5月	不検出	0.24	0.31	
		6月	不検出	0.08	0.15	
		7月	不検出	0.07	0.11	
		8月	不検出	不検出	不検出	
		9月	不検出	不検出	不検出	
		10月	不検出	不検出	不検出	
		11月	不検出	不検出	不検出	
大気浮遊じん	大津市	4～6月	不検出	不検出	不検出	mBq/m <sup>3</sup>
		7～9月	不検出	不検出	不検出	
水道水(100L)	大津市	6月	不検出	不検出	不検出	mBq/L
土壌(0～5cm)	野洲市	7月	不検出	不検出	9.1	Bq/kg乾土
土壌(5～20cm)	野洲市	7月	不検出	不検出	3.3	
牛乳	日野町	8月	不検出	不検出	不検出	Bq/L
精米	近江八幡市	10月	不検出	不検出	不検出	Bq/kg
大根	高島市	10月	不検出	不検出	不検出	Bq/kg